

道徳学習指導案

指導者 隆杉 佳代

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 1 日(木)
- 2 学 年 第 2 学年 2 組 21 名 [2 年 2 組教室]
- 3 主 題 名 生きる喜び [3 - (1) 生命の尊重]
- 4 資 料 名 「ぼく」(出典「みんなたのしく」東京書籍)

5 主題設定の理由

- 生命あるすべてをかけがえのないものとして尊重し、生命を大切にする児童を育てようとすることをねらいとしている。

生命あるもの全てがかけがえのないものであることを理解し、尊重していくことは、人間としての基盤をなす基本的なことである。主として人間の生命の尊さについて考えを深めるが、生きているものすべての生命の尊さにも価値を置きながら考えていく必要もある。

この段階においては、生命の尊さを知的に理解するというより、生活経験の中で生きていることを感じ取ることが中心になると考えられる。例えば体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている。夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる。おいしく朝食が食べられる。学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる。このような極めて当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そのことに喜びを見いだすことによって生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。

- 本学級の児童は、困っている友だちに優しく声をかけたり、気持ちよく手伝いをしたり、明るく学校生活を送っている。生活科で生き物を育てる中で、生き物には命があり、その命を大切にしようとしている児童はいる。しかし、自分の命の大切さを考えることはあまりない。命がなくなることは困るが、当たり前過ぎて、命があるっていいことだな、素晴らしいなと感じている児童は少ない。生きているって素晴らしいと感じることで、自分の命を大切にしていきたい児童に育てたい。

- 本資料は、「ぼく」という男の子が、自分の好きな物を教えてあげようという語りかけから始まるお話である。「ぼく」の好きな物をいろいろと挙げるが、一番好きな物は「ぼく」であるとしている。それは、「ぼく」がいなければ、何も好きになれない、体験できないからである。

指導にあたっては、導入で自分の好きなことや好きな物を発表する。その際、簡単に理由も言うようにさせる。資料を読み、「ぼく」の好きな物を発表し、中心発問では、どうして「ぼく」が一番好きなのかを話し合う。そこで、「ぼく」がいなくて何もできないことに気づかせていく。「ぼく」がいなくて好きなこともできないし、好きな人とも会えない、好きなこともできないことから、「ぼく」が生きていることの喜びを共感できるようにさせる。資料の「ぼく」だけでなく、児童一人一人も同じであることに気づき、自分のことと重ね合わせて考えることができるようにしていく。資料の最後に「ところで、きみ

はなにがすき。」と尋ねられていることから、自分自身へと視点を変えていく。ぼくのよ
うに自分がいて良かったと思ったことを話し合い、生きることの喜びを感じることができ
るようにさせる。展開後段では、まず自分のいいところを考え、自分への賞状を作成する。
自分のいいところを見つけられない児童には、教師が日頃見つけているその児童のいいと
ころを声かけし、自分のいいところに気づかせる。そして、作った賞状をみんなの前で発
表する。お互いに友達のいいところを認め合い、喜びを分かち合える雰囲気作りを心がけ、
自分の大切さを感じ取ることができるようにする。終末では、賞状を読み合った感想を発
表し、自分の命を大切に生きていこうとする心情を育てていきたい。

6 準備物

挿絵、短冊、ワークシート、自分への賞状の紙

7 ねらい

なぜ「ぼく」が一番好きなのかを考えることで、生きることの喜びを感じ、自分の命を
大切に生きようとする道徳的心情を育てる。

8 本時のポイント

自分のよさを見つめ直すことで生きることの喜びを感じ、自分の命を大切に生きていこ
うとするために、自分への賞状を作成し、発表し合う。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導 入	1 自分の好きなことや好きな物を発表する。	○好きなことや好きな物は何ですか。 ・サッカーをすること ・絵を描くこと ・カブトムシ ・家族	○ 自分の好きなことや好きな物を自由に発表させる。その際、理由も言わせるようにする。
展 開 前 段	2 「ぼく」の資料を聞いて話し合う。	○「ぼく」の好きな物は、どんなものでしたか。 ・お父さん、お母さん、ベス、妹 ・ケンちゃん、ヒロシくん ・パン、裸で駆け回る ・海、空、夕焼け ・ぼく	○ 「ぼく」が好きな物を全て発表させる。 ○ 好きな物が想像できるように、挿し絵を活用して板書に掲示する。

		<p>◎ どうして、「ぼく」が一番好きな物は「ぼく」なのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくがいるから、好きなことができるから。 ・ぼくがいるから、みんなに会えるから。 ・ぼくがいるから、おいしいものが食べられるから。 ・ぼくが一番大切だから。 <p>○ 自分がいてよかったと思うことは、どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしいものをたくさん食べること。 ・好きなことをがんばれること。 ・友だちと遊ぶことができること。 ・家族と一緒にいられること。 	<p>○ 「ぼくがいるから…」 「ぼくがいなかったら…」 と言い、「ぼく」が自分のことを一番好きだと言っている根拠を考えやすくする。</p> <p>○ 日常生活の当たり前と思っていることであっても、自分が生きている証として、見直すことができるようにする。</p>
展開後段	3 今までの生活を振り返り話し合う。	○ 自分の好きなところ、いいところを思い出し、自分への賞状をつくり、発表しましょう。	<p>○ 自分への賞状の書き方や発表の仕方を理解させる。</p> <p>○ 自分の好きなところ、いいところを思い出してシートに書かせる。</p> <p>○ 発表を聞いているときに、拍手するように呼びかけ、お互いに認め合い、喜びを分かち合える雰囲気作りを心がける。</p>
終末	4 賞状を読み合った感想を発表し合う。		○ 感想を発表し合う活動を通して、周りから受容される喜びを十分に引き出すようにする。